

システム開発・ソフトウェア開発論文特集の発行にあたって



システム開発・ソフトウェア開発論文特集編集委員会

委員長 山里 敬也

研究が学問に根ざした新しい原理、現象などを探求するものとすれば、実用化の仕事は、現場の実際からにじみでるものを正しくつかんで、学問的に組み立てられた骨組みに肉付けする作業といえる。理論的な新たな結果、実験的な新たな結果、あるいは理論と実験の組合せによる新たな結果をまとめた論文は、研究的な要素が強く評価も受け入れやすい傾向がある。一方、実用化前の検証に必須となるシステム開発やソフトウェア開発は、面倒が多く、ややもすれば面白みが少なく、縁の下の力持ちのような役目になりがちである。しかし、そんなことはない。実際の社会に役立つものの開発には、細部の肉付けや周辺の関係各部に幅広く気を配り、予想される一切の問題を検討して、現場に出してから問題の起きないようにしなければならない。以上の条件のもとで性能を追求しなければ成功しない。この点において、システム開発やソフトウェア開発は研究以上の価値をもち、よって、これらの開発にかかわる創意工夫は和文論文誌Bの読者にとって有益な情報になる。

本特集は、システム開発やソフトウェア開発にかかわる貴重な成果を論文として発表して頂くことにより、研究開発にかかわる優れた創意工夫を共有できる

だけでなく、研究開発に携わる方々の活動活性化の契機となることを期待して企画したものである。昨年に引き続き今回で2回目となる。前回同様に、今回も特集テーマとしては、特定の技術分野に絞るのではなく、広く通信技術全般を対象とした。また、本特集の編集委員会体制も前回同様に和文論文誌編集委員全員に本特集の編集委員を務めて頂いた。

本特集に投稿された論文数は、論文24編、レター1編であり、厳正な査読の結果、最終的には論文9編を採録することとなった。そのほかに2編の招待論文の御寄稿を頂いた。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位、並びに事務局の奥村様に深く感謝申し上げます。

山里 敬也 (正員：シニア会員) 平5慶大大学院博士課程了。工博。同年名大・工・電子情報・助手。平10同大・情報メディア教育センター・助教授。平16同大・エトピア科学研究機構。平19同大・エトピア科学研究所・准教授。平22同大・教養教育院・教授。現在に至る。平21より、和文論文誌(B)編集委員長、USN研副委員長。

システム開発・ソフトウェア開発論文特集編集委員会

- |      |                         |
|------|-------------------------|
| 委員長  | 山里 敬也                   |
| 副委員長 | 高橋 応明                   |
| 委員   | 石井 望・石川 博康・石川 義裕・上原 秀幸  |
|      | 王 建青・岡部 寿男・加藤 寧一・可児 淳一  |
|      | 上山 憲昭・九鬼 孝夫・合志 清一・坂井 栄治 |
|      | 佐藤 伸二・佐野 裕康・田嶋 裕久・鷹取 泰司 |
|      | 馬杉 正男・増田 悦夫・前山 利幸・松田 哲史 |
|      | 三浦 周・水野 修・宮下 裕章・宮田 英之   |
|      | 森山 敏文・柳 生智彦・山崎 憲一・和田 忠浩 |